

環境活動レポート

Vol. 4

2016年度



P&W パーパーウェア株式会社

対象期間： 2015年11月～2016年10月

発行日： 2016年11月30日

1. 組織の概要

- ・ 事業所名及び代表者名
ペーパーウェア株式会社
代表取締役社長 靄岡 隆
- ・ 所在地
本社： 東京都千代田区神田佐久間町 3-21-2
千葉工場： 千葉県野田市西高野 278
- ・ 環境管理責任者および担当者連絡先
環境管理責任者兼担当者
管理部長： 新井聡 TEL 03(5833)5050
Eメール： s_arai@paperware.co.jp
URL： <http://www.paperware.co.jp/>
- ・ 事業活動の内容
紙皿・紙トレー等の紙製容器の製造及び販売
- ・ 事業の規模
主要製品の生産量・出荷額 21.6億円／2016年度

	本社	千葉工場
従業員数	12名	70名
延床面積	311 m ²	4,175 m ²

2. 対象範囲

- ・ 登録組織名：ペーパーウェア株式会社
- ・ 対象事業所：
本社： 東京都千代田区神田佐久間町 3-21-2
千葉工場： 千葉県野田市西高野 278

3. 環境方針

ペーパーウェア株式会社環境方針

<企業理念>

当社は、地球環境保全が世界共通の最重要課題のひとつであることを認識し、「取引先および社会一般から、より信頼される会社を目指す」という経営理念のもと、紙製容器の製造販売事業において環境との調和をはかりながら環境負荷の低減に努めます。

<行動方針>

1. 省エネルギー化を進めて、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化の防止に努めます。
2. 省資源で仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
3. 節水を進め、排水量を低減します。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. グリーン購入を推進し、環境に配慮した調達を進めます。
6. 環境に優しい（環境の改善に寄与する）商品の開発・拡販に努めます。
7. 環境関連法規等を遵守すると共に、内外に環境改善への活動を約束し、環境コミュニケーションを通じて公表します。

社内の要所に環境方針を掲示して、全従業員にエコアクション21環境経営システムを徹底します。

2012年7月1日

ペーパーウェア株式会社

代表取締役社長 轟岡 隆

4. 環境目標・環境目標の実績

(1) 千葉工場

① 中長期目標

目標項目	2014年度 基準年度	2015年度	2016年度	2017年度
1. 二酸化炭素排出量削減				
①電力 (Kg-CO2)	626,959	現状維持	現状維持	現状維持
2. 廃棄物の削減				
①一般廃棄物 (kg)	425,469	△0.2%	△0.3%	△0.4%
②産業廃棄物 (kg)	4,380	現状維持	現状維持	現状維持
3. 総排水量削減 (m3)	400	△0.2%	△0.4%	△0.6%
4. 化学物質使用量の適正管理	適正管理のため管理ルールを設け、遵守状況をチェックする。			
5. 事務用品のグリーン購入 (%)	85%	75%	75%	75%

※基準年度は2013年11月～2014年10月

※CO2排出係数は、H25年度東京電力㈱の実排出係数0.525kg-CO2/kwhを使用しました。

② 運用結果 (2015年11月～2016年10月)

目標項目	基準年	目標	実績	目標達成状況
1. 二酸化炭素排出量削減				
①電力 (Kg-CO2)	626,959	626,959	743,570	×
2. 廃棄物の削減				
①一般廃棄物 (kg)	425,469	424,618	517,363	×
②産業廃棄物 (kg)	4,380	4,380	5,540	×
3. 総排水量削減 (m3)	400	392	302	○
4. 化学物質使用量の適正管理	管理ルールを遵守し、適正管理されている。			○
5. 事務用品のグリーン購入 (%)	85%	75%	82.0%	○

○目標達成 △目標未達成ただし基準年比減 ×目標未達成

(2) 本社

① 中長期目標

目標項目	2014年度 基準年度	2015年度	2016年度	2017年度
1. 二酸化炭素排出量削減				
①電力 (Kg-CO2)	9,725	△0.1%	△0.2%	△0.3%
②ガソリン (Kg-CO2)	1,694	△0.1%	△0.2%	△0.3%
2. 事務用品のグリーン購入 (%)	70.50%	70%	70%	70%
3. 環境対応商品販売 (千円)	84,891	+5%	+10%	+15%

※基準年度は2013年11月～2014年10月

※CO2排出係数は、H25年度東京電力㈱の実排出係数0.525kg-CO2/kwhを使用しました。

※環境対応商品は、基準年計測当初①間伐材使用商品と②再生紙使用商品と致しましたが、厚生労働省の「食品用器具及び容器包装における再生紙の使用に関する指針」(平成24年4月)に沿い、再生紙使用商品の製造を中止し、基準年度の数値を①間伐材使用商品に変更いたしました。

② 運用結果（2015年11月～2016年10月）

目標項目	基準年 同月	目標	実績	目標達成状況
1. 二酸化炭素排出量削減				
①電力 (Kg-CO2)	9,725	9,706	9,403	○
②ガソリン (Kg-CO2)	1,694	1,693	1,691	○
2. 事務用品のグリーン購入 (%)	70.50%	70%	60.5%	×
3. 環境対応商品販売 (千円)	84,891	93,380	154,433	○

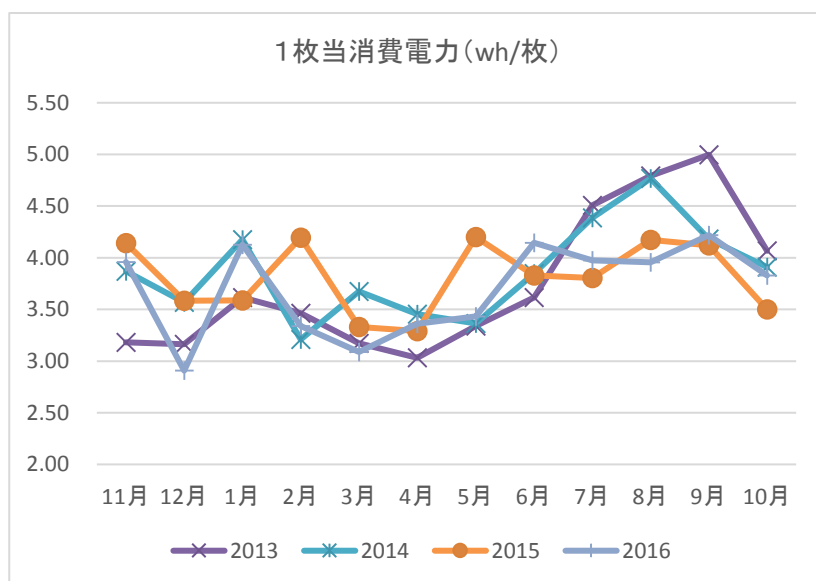
○目標達成 △目標未達成ただし基準年比減 ×目標未達成

千葉工場において、下記要因で目標を達成出来ませんでした。

- ・電力量 (+18.6%) は、基準年と比較して生産量が増加 (+24.6%) したのが原因です。

生産効率検証のため、単位当たりの消費電力を計測いたしました。

(kwh/枚)	2014年度 (基準年)	2016年	増減
	3.85	3.67	-4.7%



売上増加（基準年比+33.5%）に伴い、夏場を中心に使用電力量が増加しましたが、従来より実施しているデマンド管理、生産機運転の効率化に努めました。2016年7月、第2棟の蛍光灯を全てLED化し、年間消費電力を68.7%削減（61.2kwh⇒19.1kwh）しました。また、2016年8月及び10月、コンプレッサー4台をインバーター仕様の省エネ型（従来比30%省電力）に切り替えました。更には、2016年7月に製造装置1機を導入し、規模のメリットが発揮され、1枚当たりの消費電力は2014年：3.85kWh/枚から2016年：3.67kWh/枚と4.7%減少（前年比3.2%減）できました。

5. 環境活動計画・取組結果と評価、次年度の取組内容

(1) 工場

環境活動計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減 (電気) ① 昼休みの消灯 ② エアコン冷房室温 28℃暖房 20℃ ③ クールビズ運動 ④ パソコン省エネ設定 ⑤ 省エネタイプ(LED)の証明灯へ更新 ⑥ 生産効率の向上⇒単位数当たりの使用電力を計測する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休みの消灯は EA21 取組前より 100%実施。 ・ 事務所棟の室温管理は 100%実施。工場棟は夏期室温が 38℃に達することもあり、社員の健康のため冷房設定を 28℃以下で運用(室温は 28℃超) ・ 第2棟の蛍光灯を 100%LED化。省エネ型コンプレッサー4台導入。 ・ 単位数あたり消費電力を計測、上記省エネ投資の効果が確認できた。 	継続して実施する
二酸化炭素排出量削減 (ガソリン) ①エコドライブの徹底 ②燃費管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブの励行。 ・ 使用記録票を作成し燃費を管理。 	継続して実施する
廃棄物量削減 ① 両面コピーの推進 ② 廃棄物区分によりリサイクル効果の向上を図る ③ 紙送りピッチの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報管理上問題ないものについては裏面を再コピー利用中 	継続して実施する
水道水の削減 ① 節水シールの貼り付けとポスター掲示 ② 節水弁の取り付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節水教育を継続中 ・ トイレ他、省エネ型に切替。 	継続して実施する
化学物質適正管理 使用量を台帳により適正管理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用量を、台帳管理により適正に管理する。 	継続して実施する
グリーン購入 グリーンマーク付き購入文房具の購入徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーン商品を最優先で購入するよう徹底した。 	継続して実施する。

(2) 本社

環境活動計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減 (電気) ① 空調温度の適正化 (冷房 28℃、暖房 20℃) ② クールビズ運動 ③ パソコン省エネ設定 ④ 昼食時、不使用時の消灯徹底	<ul style="list-style-type: none">・ 昼休みの消灯は EA21 取組前より 100%実施。・ 室温管理は EA21 取組前より 100%実施。・ クールビズ期間を延長 (6～9月⇒5～10月)・ EA21 取組前より Energy Star 等の省エネプログラム内蔵の PC を使用。	継続して実施する
二酸化炭素排出量削減 (ガソリン) ①エコドライブの徹底 ②冷房の控えめ使用 ③燃費管理	<ul style="list-style-type: none">・ エコドライブを励行。・ 使用記録票を作成し管理している。	継続して実施する
グリーン購入 グリーンマーク付き購入文房具の購入徹底	<ul style="list-style-type: none">・ グリーン商品を最優先で購入するよう徹底。	継続して実施する。
環境対応商品販売 ① 環境対応商品の開発 ② 環境対応商品の販売	<ul style="list-style-type: none">・ 環境対応商品 (ナチュラルパルプ) の販売強化により基準年比+81.9%と大幅増。	継続して実施する

6. FSC®/COC認証の取得 (FSC®C126252)

紙の原料となる木材パルプは約 88%が植林によるものです。管理された木々が成長の段階で、多くの二酸化炭素を吸って温暖化対策に貢献しています。

さらに、製造段階で出る廃液（黒液）を燃料として活用。そして植林を行う、このサイクルを繰り返す事により、管理された循環資源として温暖化対策・枯渇する事のない資源として環境対策に貢献しております。

2015年9月、当社は森林資源の保全に賛同し当社は森林資源の保全に賛同し、持続可能な森林の利用と保護に努めるべく、FSC®森林認証を取得しました。

〈 FSC®森林認証とは 〉

独立した第三者機関が、FSC の基準と原則に照らして、森林が適切に管理されているか評価し、その森林から伐採された木材を原材料に含む製品であることを認証するものです。

FSC 認証製品が出来るまで



FM 認証（森林管理認証）
適切な管理がなされている森林を審査・認証



COC 認証（加工流通過程の管理認証）
認証された森林から生産された木材を管理・加工



認証された原紙を元に製品化。
FSC 認証製品へ

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は以下の通りで、これらへの違反はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

適用関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
浄化槽法	千葉工場浄化槽	設置許可・法定点検 OK
廃棄物処理法	廃プラ等の産廃	委託契約等 OK
家電リサイクル法	廃棄時の家電リサイクル券	廃棄なし
容器包装リサイクル法	包装用パッケージフィルム	再商品化義務 OK
フロン排出抑制法	・ エアコン等のフロン漏洩確認 ・ フロン回収	・ 簡易点検・定期点検実施 記録の保管⇒OK ・ 廃棄時対応⇒廃棄なし
消防法	防火管理者選任、消防用設備点検	届け出、点検結果 OK

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

(全体評価)

2016年度は、前年度に続き、新規取引並びに既存取引先の受注増、食品用容器の受注増等により、売上は前年比17%・約3億1500万円の増収となり、過去最高の売上となりました。

当社のCO₂排出の殆どは工場で使用する電力ですが、夏場を中心に受注増に伴う消費電力量の大幅増加が予想される中、工場内蛍光灯のLED化やインバーター仕様のコンプレッサー導入などの省エネ投資、生産力向上による効率的稼働、デマンド管理の強化、クールビズ期間の延長等により、使用電力量は前年比8.5%の増加にとどめ、商品一枚あたりの使用電力は3.2%減少しました。

一部の環境目標に未達はありますが、「環境にやさしい紙の食器・容器」メーカーである当社の次期主力商品と位置付ける環境配慮型商品の売上は順調に伸びており、拡販にともない環境コミュニケーションも図れてきております。

食品用容器の生産に伴い、衛生管理意識を社員全体に浸透させるべく衛生教育も実施中。引き続き、全員参加の体制を更に浸透させ成果をあげていきます。

以上